

町 長	助 役	院 長	事務長	事務次長	担 当	合 議

別記様式第4号

会 議 結 果 等 報 告 書			
会議区分	会 議 ・ 打 合 せ ・ 協 議	文 書 番 号	
		決 裁 期 日	
名 称	第1回 上富良野町立病院運営審議会議案		
日 時	平成18年 9月 8日(金) 午後2時00分から午後3時00分まで		
場 所	上富良野町役場 審議室		
出席者	尾岸町長、堀内委員長、花輪委員、久我委員、寄谷委員、益山委員、垣脇、大場、山川		
内 容	1 尾岸町長挨拶		
	2 堀内委員長挨拶		
	3 17年度の病院事業決算状況について報告		
	町からの、225,060千円の繰入を受けながらも、		
	76,454千円の赤字となっており、前年比3,535千円の増となっ		
	ており依然として厳しい経営状況である。		
	入院患者が10.1%と外来患者が4.7%の減少が原因であり、今後も		
	続くと思われる。		
	繰越欠損金は、750,400千円で17年度の医業収益の1.3倍とな		
	っている。		
17年度においては、不良債務は発生していない。			
4 18年度(4月から7月)の病院の経営状況について			
一般病棟の看護師の複数夜勤体制が出来なかったため、14,595千円			
の減収となり、ひとり夜勤が継続すると1年間で6千万円の損失の増が予			
想される。			
これは、18年度の診療報酬の改正に伴う、ひとり夜勤の「特別入院基本			

料」の配置によるもので、早急に複数夜勤体制を構築しなければ、入院基本料の減収は続く。

#### 5 18年度 診療報酬改定と看護職員の配置について

一般病棟は、「複数夜勤体制と一人月平均72時間以内の夜勤時間」の看護体制をとらなくては、大幅な入院基本料の減収となるため、早急に看護師を採用して、複数夜勤体制により運営したい。

看護師の不足に伴う外来当直の廃止と救急外来の休診については、来年6月に開院する富良野協会病院の動きを見守りながら、町立病院としての決定をしなければいけないと思われる。

いずれにしても、町立病院の厳しい経営状況にはかわりは無く、多くの内容を精査して経営改善することが大事である。

また、23年度の療養病床の廃止についても、今後の情報収集を進め、決定していくこととする。